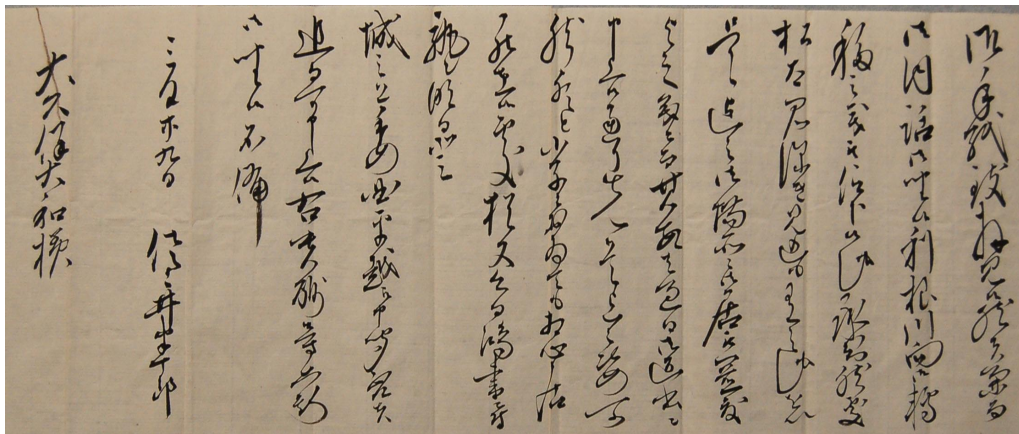


足立区と新選組

所在地: 足立区立郷土博物館 (寄託) ※公開はしていません



(慶応4年・1868)3月29日付 大久保大和(近藤勇)宛 佐々井半十郎書状

かねこけもんじよ 金子家文書

金子家は江戸時代初頭に綾瀬周辺を開発した金子五兵衛の子孫で、綾瀬周辺は開発者の金子五兵衛にちなみ、五兵衛新田と呼ばれていました。この金子五兵衛の子孫には、21点の新選組に関する古文書が伝わっています。

慶応4年(1868)、新政府軍は江戸城総攻撃を3月15日と定めます。まさにその頃、3月13日の夜から4月1日までの間、新選組は五兵衛新田に屯所を設け、金子家をはじめとする綾瀬周辺の農家や寺に分宿し滞在していました。こうしたことから、金子家には新選組に関する多数の古文書が伝来したのです。金子家文書は、幕末の新選組の動向を知るための貴重な資料となっています。



現在の金子家

文化財豆知識 新選組局長 近藤勇 -最後の日々-

写真の古文書は、金子家文書の内の1点で、幕府の代官佐々井半十郎が五兵衛新田に滞在中の大久保大和(近藤勇の別名)に宛てた手紙です。流山(千葉県)に向かおうとしていた近藤に対し、五兵衛新田にとどまるように伝えています。しかし、4月1日に新政府軍の一部が千住宿に姿を見せると、新選組は移動を開始し、翌2日朝に流山に到着します。ところが、3日に近藤勇は新政府軍に捕らえられ、4月25日には処刑されてしまいました。五兵衛新田は、近藤勇が自由な生活を過ごした最後の場所だったのです。



金子家に伝わる近藤勇の写真